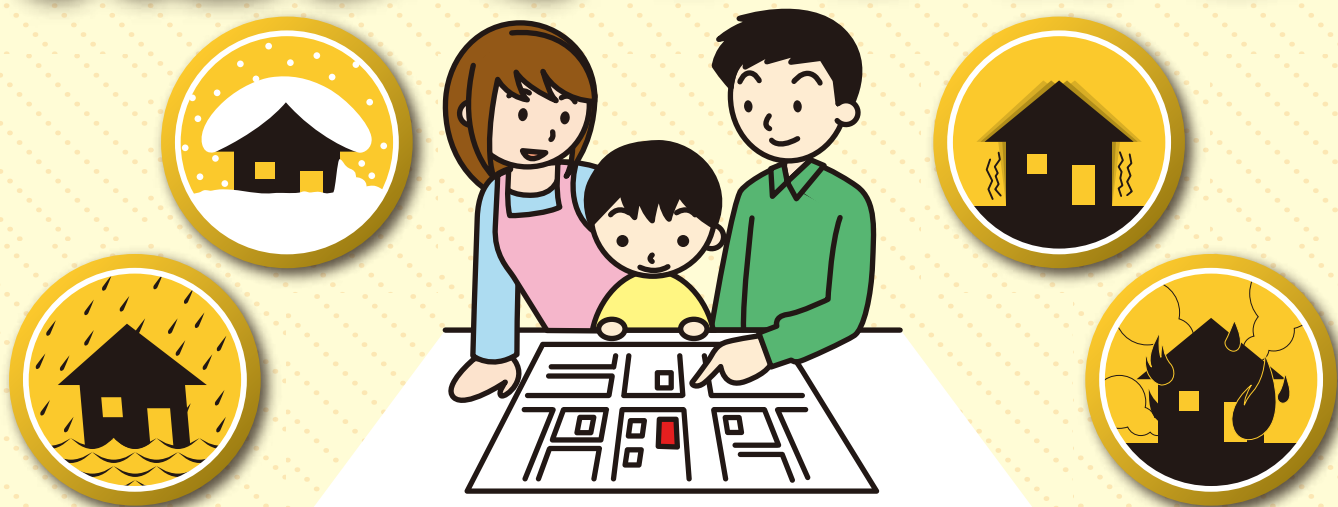


備えよう!
いざという時のために

保存版

防災のしおり



家族の連絡先

※日頃から記入しておきましょう。

名 前	勤務先・学校等	電 話 番 号	携 帯 電 話

一時避難場所

避 難 所

洪水時の避難所

● いざという時のため見える場所に保管しておきましょう ●

北竜町

(平成29年度作成)



避難準備

いざという時のために日頃から
備えを万全にしておきましょう。

あっ! 災害だ!! いざという時は!

まさかのためのしっかり対策。日頃から非常持出品の準備と連絡先・避難先の確認をすることが、「あわてず落ち着いて」対処するカギです。いつおそってくるかわからない、あらゆる災害に備えて日頃から家族で話し合っておくとよいでしょう。

非常持出品

*あらゆる災害・非常事態に備えて今一度確認してみましょう。

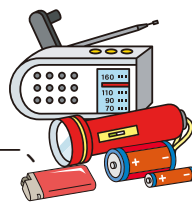
貴重品

現金、通帳、印鑑、保険証、免許証、母子健康手帳など



ラジオ 照明器具

FM付ラジオ、懐中電灯、予備電池、ローソク、ライター、マッチなど



衣類

下着、トレーナー、ジャンパー、軍手、雨具など



非常用食品

缶詰、カンパン、ビスケット、チョコレート、水など



道具類

缶切り、栓抜き、ナイフ、割り箸、ロープ、ビニールシートなど



救急・衛生用品

消毒液、傷薬、目薬、胃腸薬、鎮痛解熱剤、ばんそうこう、ほう帯、生理用品、ウェットティッシュなど



備蓄品

*数日間を自活するためのもので最低でも3日分を用意しましょう。



燃料

卓上コンロ、スベアガス、固形燃料など



洗面具

歯ブラシ、タオル、石鹸など（避難所にはありません）



水

飲料水は1人当り一日約3リットルが目安です。



暖房

暖房器具、使い捨てカイロなど



食料品

米、アルファ米、レトルト食品、カップ麺、菓子類など保存期限の長いもの

家庭構成に合わせた準備を



乳幼児がいる場合

粉ミルク、ほ乳ビン、紙おむつなど

要介護者や高齢者のいる家庭

レトルト食品（おかゆなど）、着替え、紙おむつ、ウェットティッシュ、障がい者手帳、老眼鏡、補聴器、入れ歯と入れ歯ケース、補助具などの予備、常備薬など

○循環備蓄のすすめ○

～食料品や生活消耗品の循環備蓄とは～

食料品の備蓄というと、乾パンや缶詰など「長期保存できるもの」をイメージしがちですが、例えば、お米を一袋余分に買って置き、なくなったら保管していたお米を食べて、また一袋買い足しておけば、賞味期限を気にすることなく備蓄している事になります。食料品のほか、トイレ用紙や生理用品など、生活消耗品にも取り入れることで災害時に対応でき安心です。「循環備蓄」を心がけましょう。

避難情報

災害のおそれがある時は、その状況に応じて町から避難準備情報、避難勧告、避難指示が発令されます。これらの情報に十分注意して行動してください。

① 避難準備・高齢者等避難開始

- 避難するのに時間がかかる高齢者などの要援護者やその支援者は避難を始めてください。
- 通常の避難行動ができる人は、家族との連絡、非常持出品の用意など避難の準備を始めてください。



② 避難勧告

- 対象地域の住民は指定された避難所に避難してください。
- お互いに助け合いながらすみやかに行動してください。



③ 避難指示（緊急）

- 対象地域の住民は直ちに避難しなければなりません。
- まだ避難していない住民は直ちに避難してください。

「特別警報」が発表されたら…

■ただちに命を守る行動をとってください■

- ・経験したことがない重大な災害が予想される状況です。
- ・危険が迫っているため、決して油断することなく、身を守るための最善を尽くしてください。

安全に避難するために

① 安全な避難路の確認

避難所までの経路は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しておきましょう。

② 非常持ち出し品の事前準備

避難するときの荷物は必要最小限とし、事前に準備しておきましょう。

③ 正確な情報収集と自主的避難

ラジオやテレビ、インターネットなどで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

④ 動きやすい服装で避難

避難するときは動きやすい服装を心がけましょう。

⑤ 避難の呼びかけに注意

危険が迫ったときには、役場や消防などから避難の呼びかけがあります。すみやかに避難しましょう。

⑥ お年寄りなどの避難に協力

お年寄りや子ども、病気の人などは、早めの避難が必要です。近所のお年寄りなどの避難に協力しましょう。

⑦ 2人以上で行動

なるべく2人以上での行動を心がけましょう。

【北海道防災情報システムで災害情報を入手できます】

携帯電話やパソコンから災害に関する情報を入手できる北海道のサービスです。外出先で地域の大雨や地震・津波などの情報をいち早く知ることができます。アドレスは <http://i.bousai-hokkaido.jp/>（右のQRコードから読み取ることもできます）





風水害

台風や豪雨などによる風水害は、対策によって最小限に止めることができます。気象情報には十分に注意して、早めの備えを心掛けましょう。

台風が接近！大雨が予想される場合

① ラジオ、電池の備えを！

停電に備え、携帯ラジオ、電池の準備を。



② 気象情報を聞く

気象情報を注意深く聞きましょう。また、町の防災無線などの呼びかけを聞きのがさないよう注意しましょう。



③ 早めの準備を！

避難に備えて非常持出品の準備を。



④ すみやかな行動を！

避難準備情報や避難勧告が出たらすみやかに行動を。特に河川の付近では注意。



風の強さと吹き方

平均風速 **15～20** m/s

風に向かって歩けない。転倒する人もでる。小枝が折れる。

平均風速 **20～25** m/s

しっかりと身体を確保しないと転倒する。窓ガラスが割れる恐れもある。

平均風速 **25～30** m/s

立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

覚えておくと役に立つ雨の降り方

やや強い雨 [10～20mm]

ザーザーと降る雨。地面一面に水たまりができ、雨の音で話し声が聞き取りづらくなります。

強い雨 [20～30mm]

傘をさしていても濡れるほど土砂降りの雨。道路側溝や下水、小さな川が溢れたり、小規模の土砂崩れがおこります。

激しい雨 [30～50mm]

バケツをひっくり返したような雨。道路が川のようになり、山崩れや崖崩れがおきやすくなります。危険地帯では避難の準備が必要になります。



非常に激しい雨 [50～80mm]

滝のようにゴーゴーと降る雨。傘が全く役に立たなくなります。土石流や河川の氾らんをはじめ多くの災害が発生する恐れがあります。

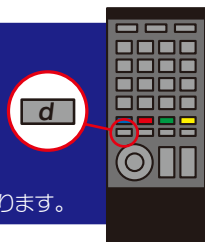
猛烈な雨 [80mm以上]

息苦しくなるような圧迫感、恐怖を感じる雨。雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要になります。

テレビで気象情報・河川情報の確認を！

地上デジタルデータ放送で気象情報や河川情報が無料でいつでも確認できます。リモコンの[d]ボタンを押すことで、気象情報や河川情報など防災に役立つ身近な情報をご覧いただけます。

※河川情報はNHKのデータ放送でご確認ください。 ※お使いのリモコンにより[d]ボタンの位置は異なります。



竜巻から身を守るために

半日～1日前

「気象情報」発表

数時間前

「雷注意報」発表

0～1時間

「竜巻注意情報」発表

「発達した積乱雲の近づく兆し」に注意

次のような状況になると、竜巻が発生する可能性があります。

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- ヒヤッとした冷たい風が吹き出す。
- 大粒の雨や「ひょう」が降り出す。

屋内にいる場合

窓やガラスのない部屋、廊下、地下室、最下層に移動する。雨戸、シャッター、窓、カーテンを閉める。丈夫な机やテーブルの下に入り、身を小さくして頭と首を守る。

屋外にいる場合

近くの丈夫な建物に避難する。飛来物から身を守る物陰や溝、水路、窪地に身を潜める。飛ばされる危険があるため車庫や物置の中は避難場所にならない！

落雷

雷も発達した積乱雲に伴って発生します。被害は夏に集中する傾向があります。

落雷や雷にともなうひょう、突風などの被害が予想される場合、雷注意報が発表されます。

野外で活動していて雷が近づいてきた場合などは、大きな建物の中か、列車やバス、車の中に避難しましょう。

近くに避難する場所がないときは

- できるだけ姿勢を低くする
- 高い木からは4m以上離れる



土砂災害にも注意が必要です！

こんな前ぶれ現象に注意!!

次のような現象を察知した場合は、土砂災害が直後に起こる可能性があります。直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、役場・消防署・警察署へ通報してください。



● 雨が降り続けているのに川の水位が下がる



● 川の流れが濁り流木が混ざりはじめる



● 斜面から水がふき出す

※この他山鳴り、地面にひび割れなどの現象が考えられます。

逃げ方を覚えましょう



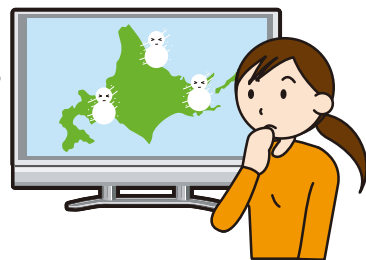
土石流は速度が速いため、流れを背にしていたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して直角に逃げるようにしましょう。

雪害

暴風雪による被害や除雪時の事故が年々増え続けています。未然に被害を防止するには、天気予報のチェック、外出を控えるなど、対応が必要です。

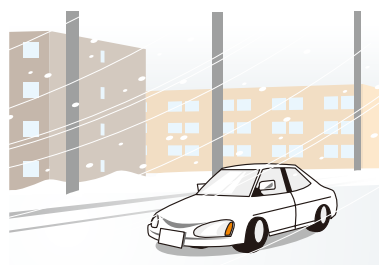
被害防止のための心得

- 気象情報に注意して、暴風雪が予想される時は、外出を避けましょう。
- 停電に備えて懐中電灯、携帯ラジオの準備をしておきましょう。
- 外出できない場合に備えて、食料や飲料水などを確保（備蓄）しておきましょう。
- FF式暖房機の給排気口付近の除雪状況を確認しておきましょう。



車で外出する際の心得

- 吹雪や吹きだまりにより、車が立ち往生する可能性もあるので、防寒着、長靴、手袋、スコップ、牽引ロープなどを車に用意するとともに、十分に燃料があることを確認して出掛けましょう。また、万一に備えて、飲料水や非常食も用意しておくとう安心です。
- もし運転をしていて危険を感じたら、無理をせずに道の駅やコンビニエンスストアなどで天気の回復を待ちましょう。



万が一、動けなくなった場合は……

- 大雪や吹きだまり等で車が立ち往生した時は、道路緊急ダイヤルやJAF等のロードサービス、近くの人家などに必ず救助を依頼してください。また、ハザードランプを点灯したり停止表示板を置くなど、車が目立つようにしてください。
- 避難できる場所や救助を求められる人家がない場合は、消防や警察に連絡するとともに、車のマフラーが雪に埋まって排気ガスが車内に充満するおそれがありますので、マフラーが雪に埋まらないように定期的に除雪し、窓を少し開けて換気を行うなどして、車の中で救助に備えてください。
- 車を置いて避難する場合には、除雪や救助活動の妨げとならないよう、連絡先を書いたメモなどを車内に置き、車の鍵は付けたままにしておきましょう。

- 道路緊急ダイヤル（#9910）
- JAFロードサービス（短縮ダイヤル#8139）



除雪時の心得 屋根の雪下しは特に危険！

- 作業は家族、となり近所にも声をかけ、2人以上で行いましょう！
- 晴れの日ほど屋根の雪がゆるんでスベリやすくなります。命綱やヘルメットを着用しましょう！
- はしごの固定はしっかりしましょう！
- 除雪機の雪詰まりは、エンジンを切ってから取り除きましょう！
- 作業のときは、携帯電話を持参しましょう！



火災

「うっかり無用心」がいつ火災につながるかわかりません。生活習慣のチェックと、一人ひとりの防火意識が最も大切です。

火災が発生したら！

① すぐに大声で知らせる！

- 火災を発見したら、まず近所の人に大声で知らせる。
- 大声が出なければ、鍋などをたたいて大きな音をたてて知らせる。
- 小さな火でも119番。当事者は消火にあたり、近くの人に通報をたのむ。



② 早く消火する！

- 出火から3分以内が消火できる限界。
- 水や消火器だけに頼らず、座布団でたたき、布団をかぶせて密閉するなど機転をきかせて消火にあたる。
- カーテンは力いっぱいひきずりおろし、火が天井へ燃え移らないようにする。



③ 早く逃げる！

- 火が天井に燃え移ったら、消火をあきらめすみやかに避難する。
- 避難する時は、燃えている部屋の窓やドアを閉める。
- 煙の中を逃げる時はできるだけ姿勢を低くし、濡れタオルで口をおおうなどして煙をさける。
- 濡らした布などで顔や体をおおい、炎の中は一気に走り抜ける。



こんな火はこうして消す

油 鍋

水をかけない。元栓を閉め、大きなふたをして空気を断つか、シーツなどを濡らして手前からかける。



石油ストーブ

濡らした毛布などをかぶせ、その上から一気に水をかける。



電気製品

いきなり水をかけると感電のおそれがあります。プラグを抜いて（できればブレーカーも切る）消火。



カーテン・ふすま

出火して2分前後で壁面等に燃え移る。天井に火が回る前にカーテンは引きずりおろし、ふすまはけり倒して消火。



常備はしているけどどう使うの？ 消火用具の正しい使い方&備え

せっかくの消火用具も使い方が分らなければ何の役にも立ちません。消火訓練には積極的に参加して、正しい操作を身につけましょう。

※消火活動は危険を伴います。無理だと思ったら、すぐ119番を！

● 消火器

- ① 安全ピンを引き抜く。
- ② ホースの先を持って火元に向ける。
- ③ レバーを強くにぎる。



● その他の備え

- ふろの残り湯は捨てない。
- 洗濯機にはいつも水をはって置く。
- バケツは2個以上用意しておく。



地震 グラグラッときたら!

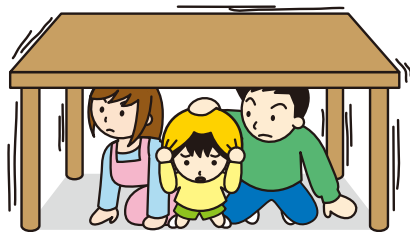
地震が発生したら、ケガや火災などの二次災害を起こさないことが、身を守るポイント。いざという時の行動を家族と話し合うことも大切です。

緊急地震速報の発令

緊急地震速報は震度5(弱)以上と推定される場合、テレビやラジオで流れます。速報が流れてから強い揺れが来るまでは、わずかな時間しかありません。震源に近い場所では、速報が揺れに間に合わないことも想定されますが、まずは**倒れやすい家具類から離れ、直ちにテーブルや机の下に潜るなど、危険を回避してください。**周りの人に声を掛けながら、状況に応じ慌てずに、まず身の安全を確保することが重要です。

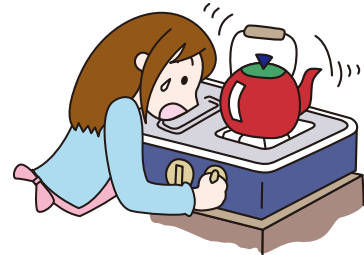
① まずは、身の安全を!

ケガをしたら火の始末や避難が遅れてしまいます。家具の転倒や落下物には十分な対策を。



② すばやく火の始末!

地震を感じたら、まず身の安全を確保して、“火を消す”かけ声の習慣をつける。



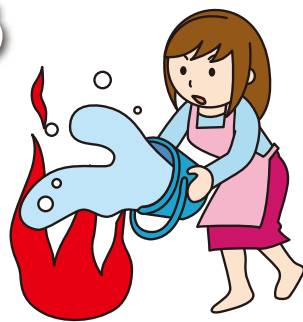
③ 戸を開けて出口の確保

振動でドアが開かなくなること。戸を開けて出口の確保を。



④ 火が出たらすぐ消火

万一出火しても天井に燃え移る前なら大丈夫。あわてず消火を。



⑤ あわてて外に飛び出さない

飛び出しはケガのもと。ガラスなどの落下物に注意し、冷静な判断を。



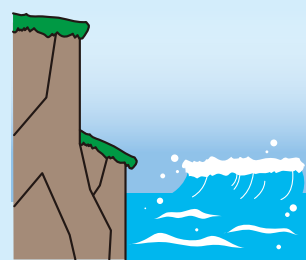
⑥ 避難はなるべく徒歩で

車での避難は危険なうえ緊急出動の障害に。ルールを守る心のゆとりを。



海岸にいるとき

海岸で地震を感じたときは、ただちにその場から遠ざかり高台などに避難しましょう。揺れが小さくても津波が襲ってくる可能性があります。



J-アラートによる緊急情報

北竜町には、地震や武力攻撃などの緊急情報をいち早く皆様へ伝達するため、「全国瞬時警報システム」(J-アラート)が設置されています。

情報の伝達は、まちの防災無線を通じて行われますので、緊急放送があった場合はその内容を確認し、適切な行動をするよう心がけましょう。

※J-アラートとは、国から発信された緊急情報を人工衛星を通じて瞬時に情報伝達するシステムです。

【緊急情報の例:地震情報、津波情報、ミサイル情報、ゲリラ情報など】



わが家の地震対策チェック

自宅の安全対策について点検し、対策が出来ていれば☒にチェックを入れましょう。不備な点がある場合は急いで対策を行いましょう。

- ☐ 家具は固定していますか。
- ☐ 照明器具はしっかり固定していますか。
- ☐ エアコンはしっかりと固定していますか。
- ☐ 棚、タンスなどの上に、重い物を置いていませんか。
- ☐ 台所、寝室に火災警報器を設置していますか。
- ☐ 灯油タンクはしっかりと固定していますか。
- ☐ 消火器を置いていますか。使い方を知っていますか。使用期限は過ぎていませんか。
- ☐ プロパンガスボンベは、しっかりと固定していますか。配管はぐらついていませんか。
- ☐ ブロック塀は、ぐらついていませんか。鉄筋は入っていますか。
- ☐ ストープ、ガスレンジなどの、火元まわりに燃えやすいものを、置いていませんか。

室内の安全対策

自宅の家具も地震時には凶器となり得ます。家具を固定し、安全対策に努めましょう。

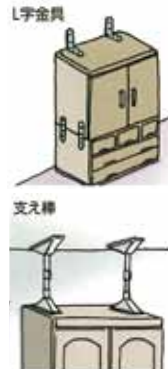
寝室が特に重要です。

就寝中に地震が起きた場合、とっさの行動は困難です。家具の下敷きにならないよう、家具の固定や配置を工夫して自分に家具が倒れてこないようにしましょう。また、地震の後に、割れたガラスを踏むなどして負傷する事例がみられます。負傷すると、その後の行動にも支障をきたしますので、スリッパなどの履物や懐中電灯などを、就寝場所の手の届く場所に備えておきましょう。



タンス・本棚

し字金具で固定する。住宅事情により金具が取り付けられない場合は、支え棒が便利です。



暖房機器

耐震自動消火装置付きのものを。周囲に燃えやすい物を置かない。



要配慮者のために

災害が起きたときに、何らかのハンディキャップがあるために、避難行動や避難所での生活において手助けを必要とする人を要配慮者といいます。このような方々にとって頼りになるのが、地域で暮す一人ひとりの助け合いです。

高齢者・傷病者の方

- 緊急時にはおぶって避難する。
- 1人での援助が困難な場合は、複数で担架や毛布などを使って避難する。

車いすを使う方

- 階段では2人以上で援助し、上がるときは前向きで、下りるときは後ろ向きで移動する。
- 車いすが使えない場合は、おぶって避難する。

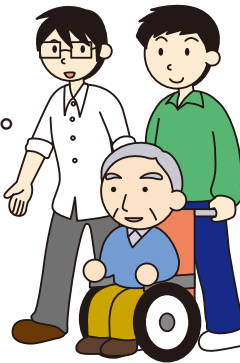


耳が不自由な方

- 筆談や身振り、手のひらに指で字を書くなどで伝える。
- 話すときには、口を大きくはっきりと動かし、言葉が伝わるようにする。

目が不自由な方

- 杖を持たない方の手でひじのあたりを軽くつかんでもらい、半歩前を歩く(杖や腕を引っ張らない)。
- 行き先や方向、段差など目の前の状況を知らせながら誘導する。



乳幼児を抱える方・妊産婦

- 声かけをしたり荷物を持ってあげたりして、身体的・心理的な負担を和らげる。

外国人の方

- できるだけ簡単な日本語で伝える。
- 言葉が通じない場合は、身振り手振りで避難所へ誘導する。



●福祉避難所 (高齢者等)

北竜町では、高齢者等の要配慮者に対して、「公民館」及び「老人福祉センター」を福祉避難所として指定しています。

※突発的な災害が発生した場合は、最寄りの指定避難所へ避難してください。

※避難勧告や指示が出されなくても、身の危険を感じた場合は自主避難を心がけましょう。

- 公民館 Tel (0164) 34-2553
- 老人福祉センター Tel (0164) 34-2435

自主防災組織とは

自主防災組織とは、住民一人ひとりが「自らの命は自ら守る」そして、「自分たちのまちは自分たちで守る」という、地域住民の自衛意識と連携によって結成される防災組織のことです。

自主防災組織の必要性

災害は、いつ発生するか分かりませんし、災害の規模によっては、公的な救助の手が到着するまでには時間がかかります。

このような事態が発生したときに、地域内の要配慮者となる高齢者や身体障がい者、介助の必要な人に救助の手を差し伸べることができるのは、身近にいる地域の皆さん一人ひとりです。

自主防災組織の役割・活動

地域内で自主的に防災活動を行う自主防災組織の役割としては、次のようなことが考えられます。

平常時

□防災知識の普及啓発活動

防災だよりなどの発行、講習会の開催など

□各家庭の安全確保

消火資器材などの点検整備、家具の固定、建物や塀の耐震診断など

□地域内の防災環境の確認

要配慮者、地域内の避難場所、避難路の把握、地域内の危険箇所の把握と防災マップの作成など

□防災訓練の実施

情報連絡訓練、消火訓練、避難訓練、搬出救護訓練、給食給水訓練など

□防災資器材点検整備

防災資器材や備蓄品の管理など



災害時

□情報収集伝達活動

地域内の被害情報などの収集や防災機関への伝達、役場や消防署などからの救護情報などの住民への周知

□初期消火活動

消火器、バケツリレーなどによる初期消火活動

□避難誘導活動

地域住民などの避難誘導、安否確認、災害時要援護者への援助など

□救出救護活動

簡単な工具を使用した救出、負傷者の救護など

□給食給水活動

備蓄食料などによる給食、救援物資(食事、飲料、水など)の避難所への運搬と分配



自主防災組織をつくるには

自主防災組織をつくるには、あらかじめ、規約や事業計画などを定めておくことと効率的な組織運営を行うことができます。

また、自主防災組織の設立についてわからないことがありましたら、役場総務課までご相談ください。



覚えて
おこう!

困った時の応急手当

災害時は、救護活動も思うように進まないことが多いのが現状です。
そんな時、適切な応急手当ができるかどうか、傷病者を救うカギとなります。

人が倒れているとき

- 1** 肩をたたきながら
声をかける。



- 2** 反応がなかったら、
大声で助けを求め、
119番通報と
AED搬送を
依頼する。



- 3** 呼吸を確認する。
(胸か腹部の上り
下がりを見る)



- 4** 普段どおりに呼吸がなかつ
たら、すぐに胸骨圧迫を
30回行う。



- 5** 胸骨圧迫の後、人工
呼吸を2回行う。



- 6** ④と⑤を救急隊員と
交代するまで続ける。

人工呼吸

- ①頭を後ろにそらせ鼻をつまむ。
②大きく口を開けて、傷病者の
口を覆い約1秒間かけて息
を吹き込む。吹き込みは2回
まで。
③口と指を離し、傷病者のはき
出す息と胸腹部の動きをみる。



胸骨圧迫

- ①胸の中心に手を置き、もう一方の手を
重ねる。
②肘を伸ばして垂直に圧迫する。
※両手で胸が約5cm沈むよう
に、強く速く圧迫。
※テンポは少なくとも1
分間に100回～120回
行う。



AED (自動体外式除細動器)

近くにAED (自動体外式除細動器) がある場合、AED
を装着し、音声ガイダンスに従って除細動することは
救命に大きな効果があります。

※小児用電極パットが入ってる場合は、小児人 (おおよ
そ6歳くらいまで。乳児も使用可能) に
も使用できます。又、ない場合は成人
用パットを代用します。

※日頃からAED設置場所を確認し
ておきましょう。



AED (自動体外式除細動器) の使い方

心臓の筋肉がけいれんを起こす「心室
細動」を電気ショック (除細動) で治療
する機器です。AEDは電源を入れると、機
械から音声で操作手順の指示が出ます
ので、初めての人でも簡単に使用できま
す。また、電気ショックが必要かどうかの
判断も自動で行い、必要がなければ指
示を出さず、間違ってもボタンを押しても
電気ショックは与えられません。

骨折

- 変形している場合は、無理に元の形に戻してはいけません。
- 局所の安定を保つために副木を当て、骨折部の上下を固定する。
- 固定したら、安静にして救護を待つ。

ワンポイント

副木は、板、靴べら、杖、傘など身近なもので十分に対応できるので、活用しましょう。



やけど

- やけどの部分をつみやかに水道の流水で痛みが和らぐまで10分以
上冷やす。
- 衣類を着ている場合は、着衣ごと冷やし続ける。
- 水ぶくれは破らないように気をつけ、触らないように保護する。



直接圧迫止血法

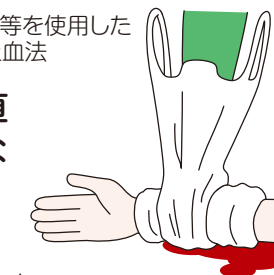
ビニール袋等を使用した
直接圧迫止血法

出血部位を確認し、きれいなガーゼやハンカチ、タオルなどで傷口を直
接圧迫します。片手で圧迫して止血しないときは、両手で体重を乗せな
がら圧迫止血します。救急隊が到着するまで押さえ続けてください。

ワンポイント

感染防止のため、できるだけビニール製やゴム製の手袋またはビニール袋を使用します。
止血のために細い紐などで縛ることは、神経や筋肉を損傷するおそれがあるので行いません。

※大量に出血している場合や出血が止まらない場合、ショック症状がみられる場合は、ただちに119番通報してください。



救急車を呼ぶ場合

あわてずに119番に電話をかけ、質問にははっきり答えてください。



①まず救急車を頼みます



②けがをしたことを伝える



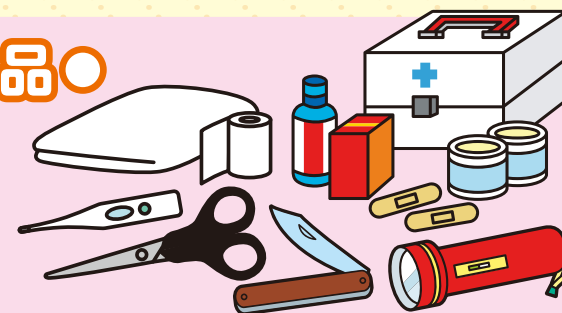
③場所 (住所) を知らせる



④電話番号を知らせる

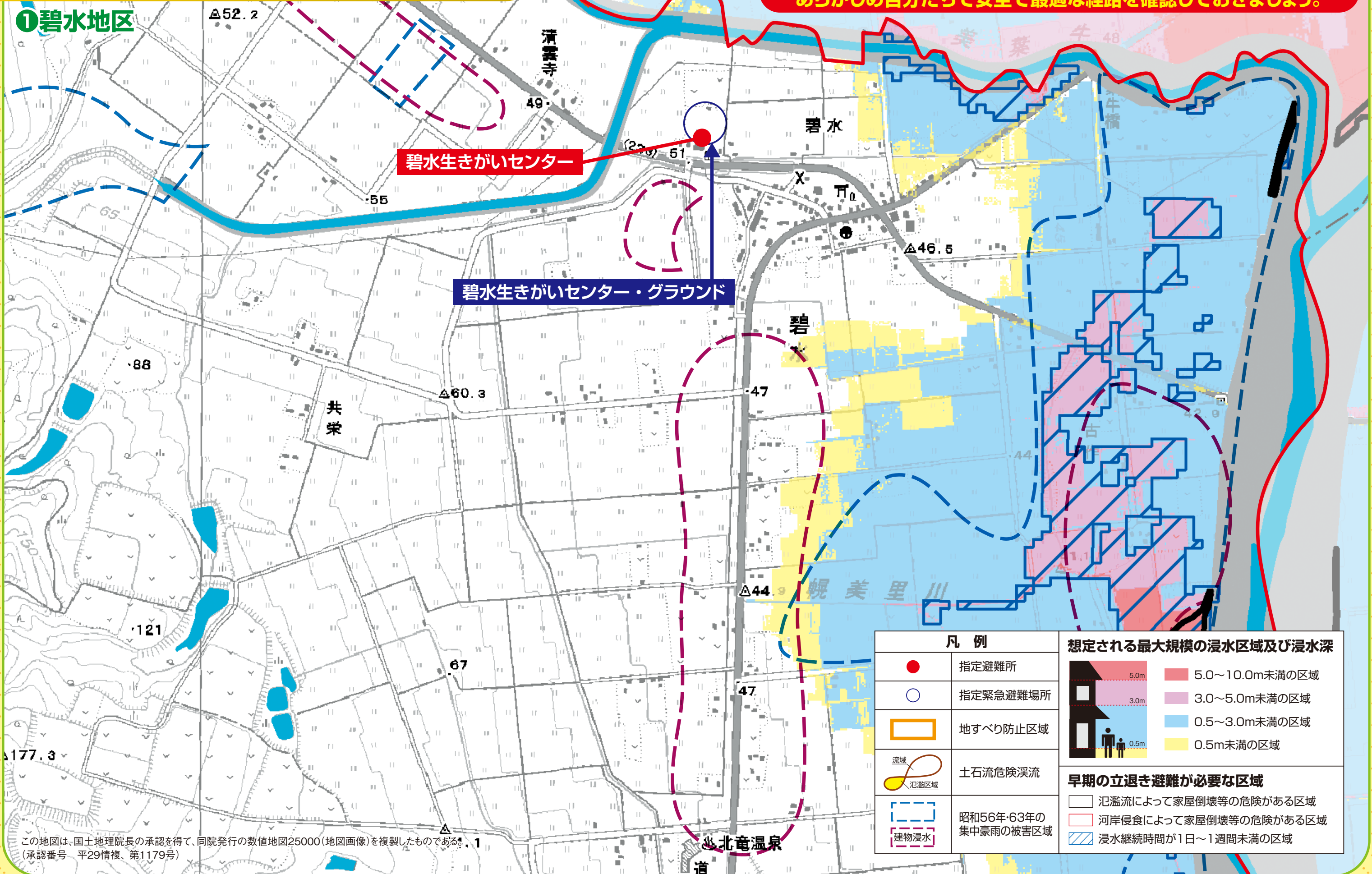
●備えておきたい応急手当用品●

- 三角巾
- 滅菌ガーゼ
- ばんそうこう
- 収納かばん
- はさみ
- ピンセット
- 消毒石けん
- 体温計
- ナイフ
- 安全ピン
- 創面消毒薬
- 懐中電灯
- 包帯



北竜町洪水ハザードマップ

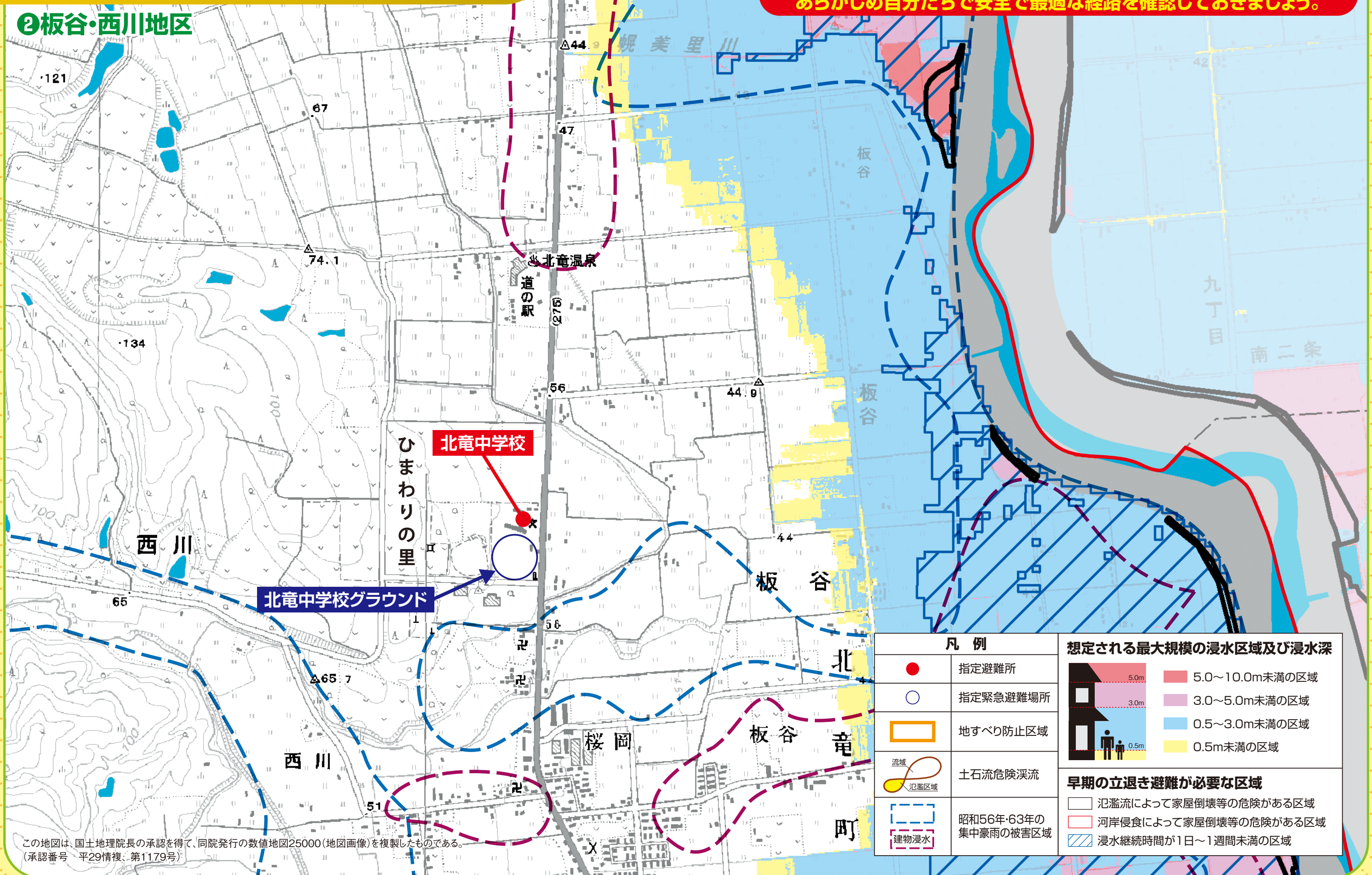
ご自宅から避難場所までの経路は、住んでいる場所によって異なります。
あらかじめ自分たちで安全で最適な経路を確認しておきましょう。



北竜町洪水ハザードマップ

ご自宅から避難場所までの経路は、住んでいる場所によって異なります。
あらかじめ自分たちで安全で最適な経路を確認しておきましょう。

②板谷・西川地区



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。
(承認番号 平29情復、第1179号)

凡 例	
●	指定避難所
○	指定緊急避難場所
□	地すべり防止区域
流域 氾濫区域	土石流危険渓流
建物浸水	昭和56年・63年の集中豪雨の被害区域

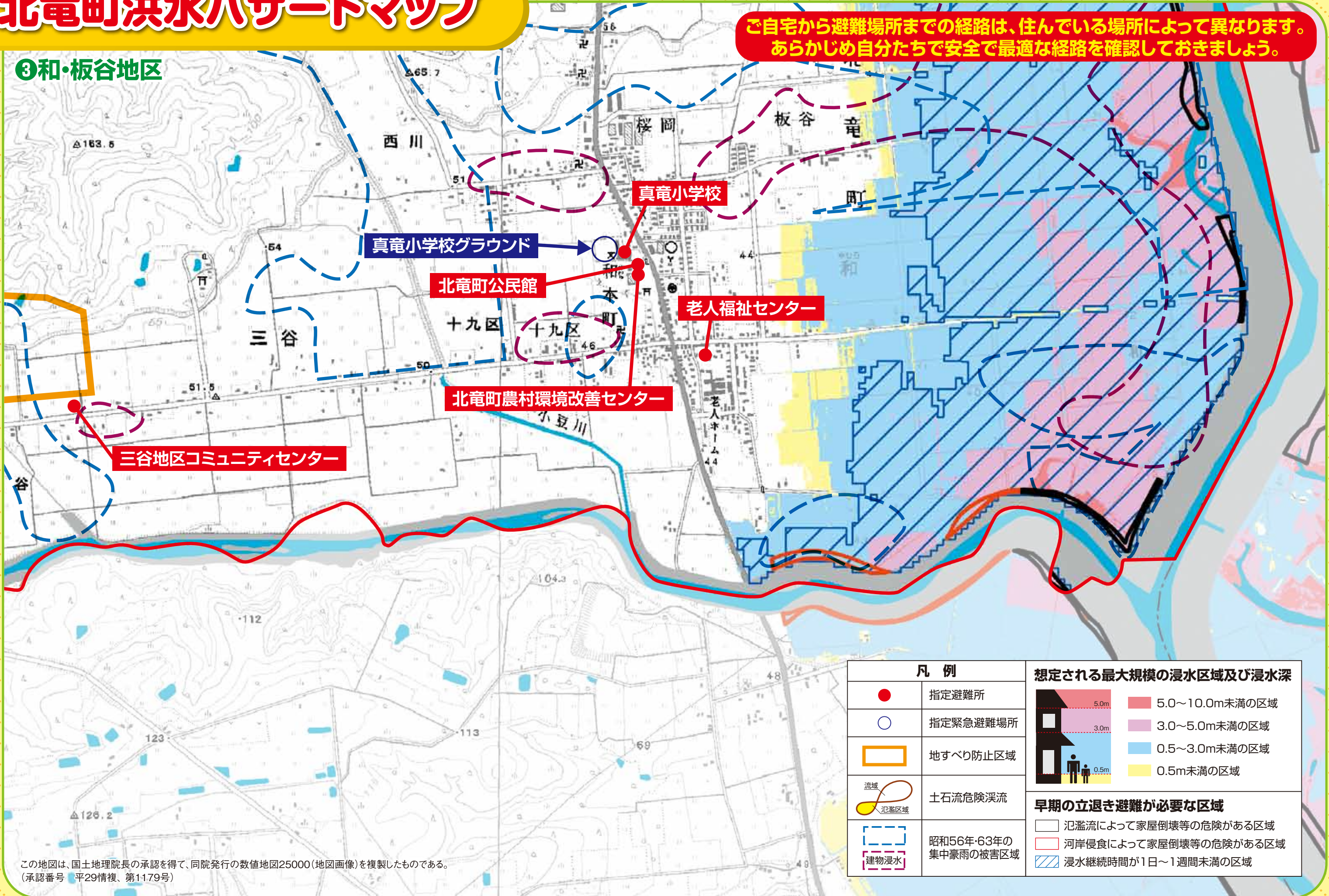
想定される最大規模の浸水区域及び浸水深	
5.0m	5.0～10.0m未満の区域
3.0m	3.0～5.0m未満の区域
0.5m	0.5～3.0m未満の区域
0.5m	0.5m未満の区域

早期の立退き避難が必要な区域	
氾濫流によって家屋倒壊等の危険がある区域	
河岸侵食によって家屋倒壊等の危険がある区域	
浸水継続時間が1日～1週間未満の区域	

北竜町洪水ハザードマップ

③和・板谷地区

ご自宅から避難場所までの経路は、住んでいる場所によって異なります。
あらかじめ自分たちで安全で最適な経路を確認しておきましょう。

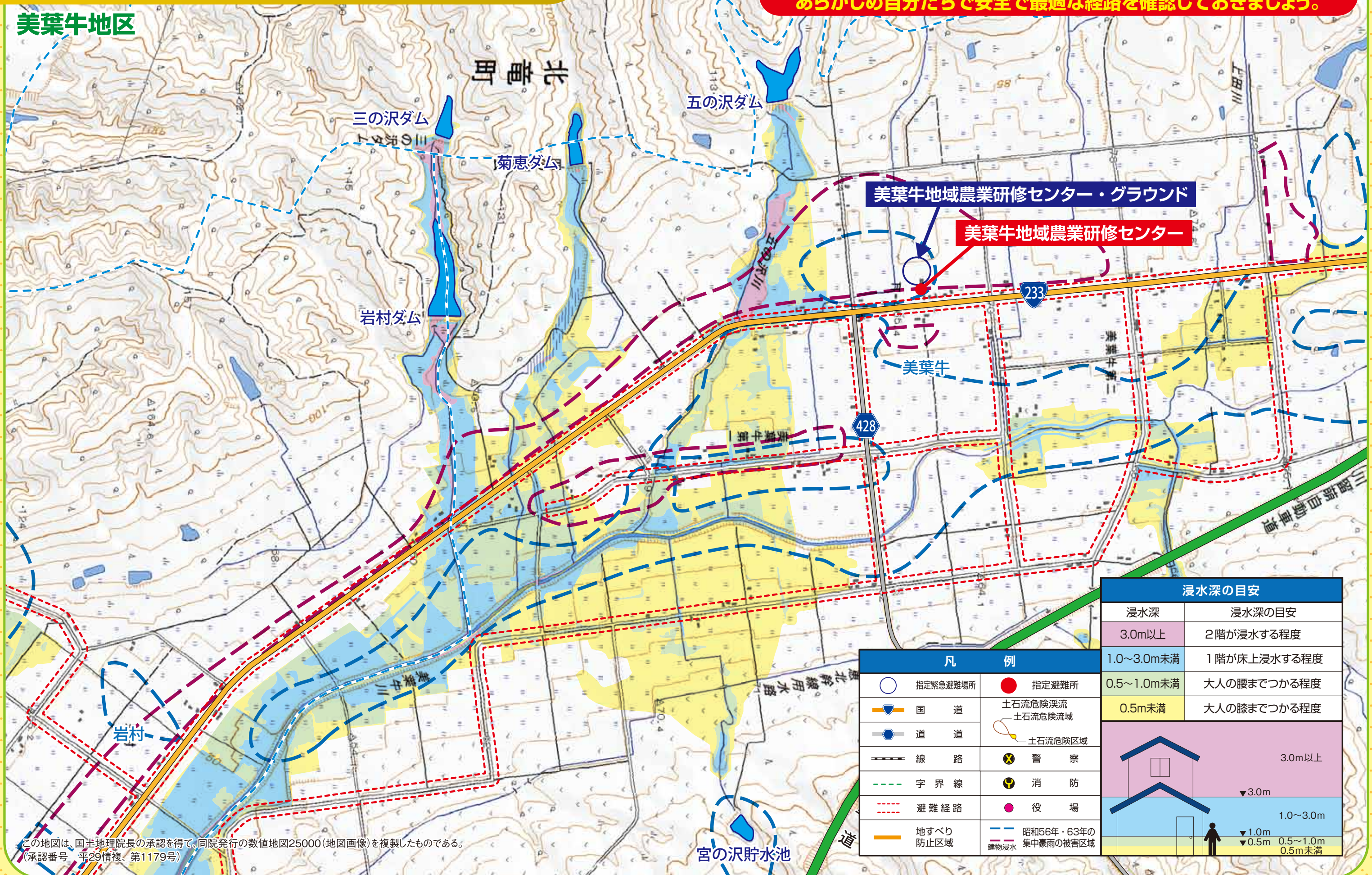


この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。
(承認番号 平29情複、第1179号)

凡 例		想定される最大規模の浸水区域及び浸水深	
●	指定避難所		5.0～10.0m未満の区域
○	指定緊急避難場所		3.0～5.0m未満の区域
□	地すべり防止区域		0.5～3.0m未満の区域
流域 氾濫区域	土石流危険渓流		0.5m未満の区域
建物浸水	昭和56年・63年の集中豪雨の被害区域	早期の立退き避難が必要な区域	
		氾濫流によって家屋倒壊等の危険がある区域	
		河岸侵食によって家屋倒壊等の危険がある区域	
		浸水継続時間が1日～1週間未満の区域	

北竜町ため池ハザードマップ

ご自宅から避難場所までの経路は、住んでいる場所によって異なります。
あらかじめ自分たちで安全で最適な経路を確認しておきましょう。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。
(承認番号 平29情復、第1179号)

凡 例	
	指定緊急避難場所
	指定避難所
	国 道
	道 道
	線 路
	字 界 線
	避難経路
	地すべり防止区域
	土石流危険渓流
	土石流危険区域
	警 察
	消 防
	役 場
	昭和56年・63年の集中豪雨の被害区域
	建物浸水

浸水深の目安	
浸水深	浸水深の目安
3.0m以上	2階が浸水する程度
1.0~3.0m未満	1階が床上浸水する程度
0.5~1.0m未満	大人の腰までつかる程度
0.5m未満	大人の膝までつかる程度

3.0m以上
▼3.0m
1.0~3.0m
▼1.0m
▼0.5m
0.5~1.0m
0.5m未満

一時避難場所・避難所一覧



一時避難場所及び避難所

対象地区	施設名	電話番号
美葉牛	美葉牛地域農業研修センター	34-3042
岩村・碧水・共栄・古作	碧水生きがいセンター	34-2109
板谷・西川・桜岡の一部	北竜中学校	34-2002
桜岡の一部・和・和東町 和町・和本町・三谷の一部	真竜小学校	34-2018
	北竜町公民館	34-2553
	北竜町農村環境改善センター	34-2553
	老人福祉センター	34-3435
三谷の一部	三谷地区コミュニティセンター	34-2901

**ご自宅から避難場所までの経路は、住んでいる場所によって異なります。
あらかじめ自分たちで安全で最適な経路を確認しておきましょう。**



ハザードマップを収納してください

(マップは常に見えるところに貼っていただくか定期的に見て避難路を確認しておきましょう)



緊急ダイヤル一覧



警察

110 番

和駐在所 (0164) 34-2100

碧水駐在所 (0164) 34-2139



火事・救急車

深川地区消防組合 北竜支署

(0164) 34-2200

※休日・夜間診療機関へのお問い合わせは、救急医療情報案内センターか、北空知夜間急病テレホンセンターまで。☎0164-22-4100

119 番

救急医療情報案内センター …… **0120-20-8699**

・携帯電話・PHSから …… **011-221-8699**

・FAX案内サービス（音声応答） …… **011-272-8699**

消防車・救急車の呼び方

あわてず！
落ち着いて！

119 番 ダイヤル

①火事（救急）です。

（住所）

（氏名）

②住所は、 _____ の _____ です。

③ ○○○○ が燃えています。（病人、けが人です。）

④目印は、 _____ です。

（電話番号）

⑤電話番号は _____ です。

※いざという時にあわてないように、点線部分にわが家の所在地等を書き込みましょう。

声の
伝言板

災害用伝言ダイヤル

被災地域やその他の地域の方々との「声の伝言板」です。
171にダイヤルしますと、ガイダンスが流れます。
この指示に従って番号をダイヤルしてください。

171 番

利用
方法

伝言を
録音する

1 7 1

局番なしの「171」をダイヤル。
後は音声ガイダンスに従って…

1

「1」を押す。

「被災者」は自分の電話番号を、「被災者以外」の人は被災者の電話番号を（市外局番から）(000) 000 0000→伝言を吹き込む（30秒以内）

伝言を
再生する
（聞く）

1 7 1

局番なしの「171」をダイヤル。
後は音声ガイダンスに従って…

2

「2」を押す。

「被災者」は自分の電話番号を、「被災者以外」の人は被災者の電話番号を（市外局番から）(000) 000 0000→伝言を聞く（30秒以内）



北竜町役場

(0164) 34-2111